

---

# パパのいうことを聞きなさい！ IFストーリー

夢を忘れた者

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

パパのことを聞きなさい！ IFストーリー

### 【Zコード】

Z0827X

### 【作者名】

夢を忘れた者

### 【あらすじ】

大学に合格し、新生活をスタートさせたばかりの瀬川祐太と職業難のなか無事就職をした瀬川虎牙は、新しい友人や憧れの人、同僚に巡り会う。しかし祐太の姉夫婦が乗った飛行機が行方不明になつた事で事態は一変する。一人暮らしの祐太の部屋に中学生の空、小学生の美羽、保育園児のひなが同居することになってしまった。困つていると祐太の兄貴分である虎牙が手を差し延べる。思春期の女の子達のパパになってしまった祐太と虎牙の運命は…?ドキドキの同居生活に、祐太と虎牙を慕う少女達に憧れの先輩や同僚との恋も

絡んで大騒動！

ドタバタアットホームストーリー始まり始まり。

## 1話（前書き）

初文です。65%ぐらいは本から抜き出していますが気にせず読んでいただければ幸いです。  
気になる方はバックして下さい。

そう、君達がいるから強くなれる。  
どんな事があつても守つてみせる。  
だつて俺達は、パパなんだから。

俺は瀬川虎牙。親戚の瀬川祐太とは兄弟の様に育つた。彼は、親戚から視てもすさまじい人生を送っている。例えば、物心ついてすぐ両親を亡くし、逞しくバイタリティ溢れる姉に育てられたという波乱に満ちたスタートを切つていた。そして今現在彼は大学に入学し安アパートに住み始めたハズだったが彼の狭い部屋には、中学生、小学生、幼稚園児という三人の女の子がいる。なぜ?と聞かれたら面倒くさい前置きが必要になってしまつ。まあ言えるのは、年頃の女の子はとにかくいろいろと難しい生き物であるということだ。そして、あろうことが俺達は、そんな難解な生き物のパパなのだ。そしてまた今日も波乱に満ちた一日が始まるのだった。

「・・・はダメー!」

朝っぱらから、安アパートの外に聞こえる小学生の悲鳴が響いた。  
「朝っぱらから何してかした。祐太の奴は。」

俺はため息混じりに呟いているとさらに怒鳴り声が聞こえてきた。どうせ困っているであろう弟分を助けるために彼の部屋に向かいドアをノックした。

「はい」

先程の小学生の声が聞こえ少ししてドアが開いた。そこから顔を覗かせているのは金髪で俺の胸の辺りまでしか身長のないツインテールの少女が出てきた。見た目はアイドルばりの美少女が俺を見上げて「いらっしゃい。虎牙叔父さん。」

と言つて出迎えてくれた。「朝忙しい時に来てごめんね。美羽ちゃん。」

そう断わりを言つて部屋に上げてもらつた。

「いいえ。大丈夫ですよ。今から、朝食にしようとしてたところでし  
たから。」

そう言つて笑顔で朝食であるうつ、トーストとサラダを運ぼうとしていたので

「俺が運ぶよ。」

断わりをいれつつ彼女が持つ前に俺は朝食を持ち、奥の部屋に運んだ。そこにはセミロングの髪をした中学生の空ちゃんと、黒髪で長髪の幼稚園児ひなと、俺の弟分である祐太が待っていた。

「おはようございます。虎牙叔父さん。」

「おはよう。虎牙おいたん。」

「ああ。おはよう。二人とも元気そうで何よりだ。」

挨拶を交わしこの部屋の主である祐太に

「おはよう。すまないが台所借りるぞ。」

伝えたい事を簡潔に言い台所に向かつた。後ろから

「おいしいやつを頼むよ。」

と言われたが短時間で作る料理にそこまでのレパートリーがなかつたので、半熟目玉焼きを作り持つて行つた時、空ちゃんが持つていた牛乳パックが噴き出し持つていた半熟目玉焼き×4に降り注いだ。

「あつ。」「」「」「」

4人の声が重なつた。俺は無言で皆（ひな以外）の所に配り

「早くしないとひなの保育園に遅刻するぞ。急いで残さずに食べなさい。」

笑みを浮かべて言つと

「「「わかりました。」」」

ひきつった笑みを浮かべ空ちゃんと美羽ちゃんと、祐太が目玉焼きを頬張り急いで準備を始めた。

彼らの心境は

『『虎牙叔父さん。怖い。』』

『虎兄。怖すぎる。殺されるかと思った。』

そんな風に思われているとは知らずに、この後の食べ終わつたひなを保育園に送り、会社に行く・・・・・・  
未婚のハズなのに三児のパパの立場を体験することになるなんて、想像してなかつたなあ。まあ、俺達5人、楽しく肩を寄せ合つて暮らすこの八畳間の生活はこんな感じで始まつたのだ。

## 1話（後書き）

駄文ですが楽しんでいただければ幸いです。

## 2話（前書き）

祐太とオリキヤラの会合前までです。

駄文ですがよろしくお願ひします。

本文をどうぞ。

話は少し戻つて4月上旬。まだこれから起こる事を知らない俺達は普通の学生と社会人として過ごしていた。

side 祐太

入学してから一週間俺は新歓コンパで知り合った仁村浩一と友達になつた。それからしばらくして、入学式以来連絡していなかつた姉さんから電話がかかってきた。近況を報告した後おもむろに姉さんが驚くべき事を口にした。

『そういうえば虎ちゃん（ひづちちゃん）がひづち側の会社に就職出来たから、挨拶に来るつて言つてたわよ。会う機会が少ないんだからから会いに来ない？それにひなに祐太の顔を覚えてもらいたいのよ。』

『えっ！虎兄<sup>ひづちじゆ</sup>が帰つて来たの？！』

俺が驚くのも無理もない、何故なら【武者修業】に行つて来ると言つて三年前に音信不通になつていたからだ。俺はしばらく考えた後「わかったよ。姉さん。いつ行けば良い？」返事を返し【じゃあ。お盆になつてから来なさい。】と言われ、まだまだ先だが楽しみにしているとおもむろに

『あつ。そうそう、その日半日だけうちの子達の面倒みてくんない？』

「…………は？」何故か予想外の返事が返つてきました。

side 祐太 out

s i d e   ? ? ?

「ふつ。雑魚が！」

「こちらに来て早々、絡まれ易い雰囲気からか、良く因縁をつけられる。本日十組目はヤクザみたいな人達で、20人ぐらい居たけど軽くノしてやつた。去り際にリーダー各のサングラスをかけたオッサンから【お前何者や?】と問われたので高校の時付いた通り名を告げた。

「黒き修羅」

簡潔に答えその場を去った。

s i d e   黒き修羅   o u t

彼が去つて数分後、ノビていた手下達が眼を覚ましてきた。手下の一人がリーダー各の男に向かい

「アニキ。すぐに奴を探し出しハつ裂きにしますか?」

と今後の行動を確認しに来たが、アニキと呼ばれた男は聴いている様子がなく、去つた男の方を見たまま固まっていた。アニキと呼ばれた男はただひと言手下に告げた。

「この街から逃げるぞ。」

「はあ?」

言われた事が理解できず問い合わせると

「『黒き修羅』……それで分かるだろ。」アニキが言つた意味を理解し身体の芯から震えだした。

『（黒き修羅）彼には手を出すな』これは日本中にあるヤクザたちの共通認識である。三年前一つの事務所がたつた一人に潰された。

その組全体で報復をしようとした所、男子高校生がたつた一人で乗り込んで来た。彼は籠手と刀という格好で千人のヤクザと組長を病院に送り、その地域に居たヤクザ達を追い出した。これには警察も黙つていなかつたが、その高校生の素性は一切分からなかつた。ただ一つその組の組長に言つた事が大きく取り上げられた。

『あんた達が裏でなにしようと別に邪魔はしない。だが、俺の家族に危害が及ぶ様なら容赦なくお前の家系の者、ペットや愛人、子供、関係者全てを探し出して殺す。』

これを聞いた他の地域に居たヤクザがそこに勢力を伸ばそうとした時、同じ様に組まるごと潰された。数人同じ様に來たが、全てが3日以内に潰された。これにより、日本中にいるヤクザ関係者全てが認識した。それが『（黒き修羅）彼には手を出すな』と言われる訳である。

## 2話（後書き）

戦闘シーンは機会があれば書いてみます。  
ご意見、ご感想お待ちしております。

### 3話（前書き）

今回本文が短くなりました。

主人公らしき奴はでてますが本格的に出てくるのは次回からになります。

拙い文ですが気にせず読んで下さい。

では本文どうぞ

そして時が流れ、約束の日になつた。

side 祐太

あつという間に約束の日が来た。俺が姉の家を訪ね、そこで三年ぶりに虎牙兄さん（虎兄）と会うという儀式めいた日だ。ちなみに俺の夏休みはバイトとゲーム意外では消費されていない。サークルである路上観察研究会には時々行くが別に活動をしているわけでもない。サークルで織田菜香さん、佐古俊太郎先輩に会つた。

（その辺は原作を読んで下さい。）

それはともかく、日射病になるんじゃないかと思つぐらいの暑さの中、俺は一度しか来たことのない道に悪戦苦闘していた。

「うーん・・・・・」ひつちで良かつたよな・・・・・？」かすかな記憶をたよりに住宅街を走る細い路地を歩いていく。

ここは豊島区池袋。JR池袋駅の駅前はそれこそ都会らしい賑やかさだ。だがしかし、そこからほんの少し離れるだけで一気に様子が変わり、古くからの住宅街が残つてたりする。

「・・・・・・暑いな・・・・・・」

まだ午前中だというのに、足下のアスファルトからは妙な熱気ががんがん立ち上つてくる。いかにも夏らしいギラギラと照りつける太陽を見上げると、なんか恨みでも有るかのような気分だ。そんな日に、大学のある八王子の山奥から姉さんの家があるこんな都心まで出向いて来ていた。

「お、あつたあつた」

緩やかな坂を上ると田の前にはテレビドラマに登場しそうなシャレた一軒家が現れる。

「しかし・・・・・相変わらずデカいな。」

姉さんの夫の姓は『小鳥遊』。大昔からこの辺りにある家で、戦前は大地主だったらしい。だが今はそのようなことはなく、持っていた土地は一族に均等に分配され、残っているのはこの家ぐらい。と姉さんが言っていた。

深呼吸をして気持ちを落ち着かせてインター ホンを押すとすぐにスピーカーから可愛らしい声が聞こえてきた。

『はい、どちらさまですか?』

『えつと・・・あなたのお義母さんの弟の瀬川祐太です。』

『ああっ、わかりました、すぐ玄関を開けますね』

はあ・・・・・よかつた。『アナタなんか知りません』なんて言われたらどうしようかと思った。少し待つていると、トタトタと足音が聞こえてきた。

『お待たせしましたあ!』

玄関を開けて顔を出したのは、長い髪をツインテールにしたアイドルばりの美少女

『わあ、お久しぶりです。覚えてますか? あたしのこと』

side 祐太 out

祐太が美少女に会つた頃一人の男が池袋駅の駅前にたどり着いていた。男は深呼吸をして空気の匂いで帰つて来たことを実感し不適に笑つた。

### 3話（後書き）

美羽「質問コーナー……」  
ドンドンパフパフ

空「い、いきなり始まりました、し、質問コーナー。この場は『読んでくださった皆さんの質問に答えていく』という場です。えっとキャラ崩壊もあるかもしれないのに気を付けて下さい。」

美羽「お姉ちゃん。堅いよもつとリラックスリラックス。」

ひな「そうだお。気楽に気楽に。」

空「妹に諭される姉つて？」

美羽「アハハ。氣をとり治して質問に行っちゃおうか？」

ひな「うん。みかぐら みなとさんからいただいたお。ありがとうございます。虎牙おいたんは何歳ですか？ヒロインは誰ですか？」

美羽「作者の設定では23歳で、ヒロインはまだ本決まりでは無いですが一人考てるそうです。うん？何お姉ちゃん？私が言つ？どうぞどうぞ。」

空「ええっと、そ、その人はまだ出てないけど、確か私たちのし、知り合いの妄想少女だそうです。」

美羽「お姉ちゃん緊張しちゃぎ？」

三人「！」意見感想お待ちしております。次回もお楽しみに。」

祐太「俺の出番無し？！」

## 4話（前書き）

祐太と再開する前の話になります。

泣いている人がいる。泣いている子供がいる。憎たらしく笑う大人がいる。誰にも気付かれず果てる人がいる。力持つ者がむやみに牙をむき、弱者を強いる。そんな世界だから俺は・・・・・・・・

### side 虎牙

長い様で短かつたこの三年間、俺はアラスカ～メキシコ（ワシントン経由）を走破した。

途中いろんな場所に立ち寄り自分の見聞を広げていき、様々な人と接してきた。例えば偶然助けた少女はマフィアのボスの愛娘だったり、軍基地の近くに居たら軍人に絡まれたので返り打ちにしたり、その事が原因で逆恨みされ何度も絡んできたので、相手をするのが面倒くさくなつたのでその軍人の上司に言いつけたら、絡んでこなぐたつたとか。それはもうたくさん接してきた。

そんなこんなしていると義姉の祐理さんから連絡があり『結婚したので顔を出しなさい。』というものだった。そういえば出て行く時も何も挨拶していなかつた事を思い出し、少し自責の念に陥つたが気持ちを切り換えて戻る事を決めた。

帰国する前日お世話になつっていたマフィアのボスとその愛娘にお礼を言い、荷物をまとめた。帰国して近くの繁華街をウロウロしていると路地裏から悲鳴が聞こえてきた。周囲にいる連中は聞こえていないようにしていた。『厄介事に巻きわりたくない。』そんな保身的な雰囲気がていた。深くため息を吐くと路地に入りそこにいる人に声をかけた。

「なにしてんの？」

side 虎牙 out

side 北原栞

友達の都合が合わなくて私が一人で買い物をしていると数人のヤクザ風の男達に声をかけられた。

「そこ行く彼女。一緒にお茶しない。」

「お断りします。」

きつぱりと断わるとドスを効かせて

「調子乗んなよ！このアマ！！」

怖かった。殺されると思った。腕を掴まれ路地に引きずり込まれた。何をされるか分からぬけど、身に危険を感じて大声で助けを求めた。けど誰もこちらを見ない。『関わりたくない』そんな雰囲気をかもしだしていた。体が震える。喉が渴く。怖い怖い怖い怖いコワイコワイコワイコワイコワイ・・・・・誰でも良い。誰か誰か私を助けて！！

「なにしてんの？」

絶妙なタイミングでその人は現れた。闇を彷彿とさせる髪、ほどよく焼けた肌、無駄の無い体格。遠目で見てカッコイイと思った。その人はゆっくりこちらにやつて来る。けどヤクザ風の男は近くにいた仲間に『殺れ』と言った。その人はナイフを取り出し、声をかけてきた男に走り出しタックルをしかけた。声をかけてきた男は近付いてきた男の手にあるナイフに気付くと、その手を蹴りその衝撃でナイフを落とした所でパンチを軽く顎の先を殴つた。ナイフを持つていた男はフラフラしたと思った瞬間後ろに吹つ飛ばされた。

「うーん。加減が難しい。」

咳きと共に私を抑えていた。リーダーらしき人が

「お前はいつたい何者だ」

声が震えていたが威厳に満ちた態度で聞いていた。声をかけてきた  
彼はその態度が気に入つたのか嬉しそうに

「まだ骨のある奴がいたか。・・・・・地獄の土産に教えてやる  
よ。・・・・・黒き修羅・・・・・」

その名を聞いたヤクザ風の男達は青ざめ震えだした。「今は氣分が  
良い。見逃してやるから早く消えな！」

そう言われヤクザ風の男達は素早く逃げ帰った。

そんな男達の態度とは裏腹に私は彼に見入っていた。路地の隙間から  
の溢れ日が彼を一層神秘的なモノに変えていった。ふと気付くと  
その人は何処かに消えていた。『もう一度会えたならお礼を言わなく  
ちゃ。』今更の事に気付きただ、再会を望んだ。・・・彼女の願  
いは数週間後に叶う事になるのであつた。

## 4話（後書き）

ケンカシーンを出してみましたが、いかがでしたか？  
自分の文才ではこれくらいが限界です。雰囲気が出でていないので、  
またこいつのある時はちょっと過激にしてみます。（流血が多く  
なるかと）

ご意見、ご感想待ってます。

## プロファイル（前書き）

修正しました

## プロフィール

瀬川 祐太 せがわ ゆうた

普通の大学一年生。特別取り柄もなく、友達を作るのも苦手な方。両親を亡くしており、姉に育てられた。虎牙とは幼なじみで実の兄の様に慕っている。

瀬川 虎牙 せがわ こうが

社会人一年目。母方の実家が武術家一家なので、幼い頃から鍛えられ、学生時代は『漆黒の修羅』と呼ばれていた。筋が通らない事を嫌うが、ある程度なら容認している。家族の事をバカにされる事を嫌い、そんな奴には容赦しない。祐太とは幼なじみで弟の様に可愛がっている。

小鳥遊 空 たかなし そら

中学一年生の美少女。しつかりもので妹思いの長女。思春期真っ只中で、祐太と虎牙との生活に一番悩みが深い。

小鳥遊 美羽 たかなし みう

アイドルばりの美貌を誇る10歳。女子力の高い小悪魔系。姉妹の絆は強いが、よく空をからかっている。

小鳥遊 ひな(たかなし ひな)

3歳の保育園児で、人なつっこく可愛い女の子。祐太のことをおいたん、虎牙のことは虎牙おいたんと呼んで慕っている。

北原 茉 (きたはら しおり)

小鳥遊家の向かいに住む女子高生。思いこみが強い。ヤクザ風の男達に絡まれている所を虎牙に助けられた。その後再開し惹かれ始め

る。

## プロフィール（後書き）

「意見」「感想待つてます。

## 5話（前書き）

もう一人のヒロイン候補との出会いになります。

駄文ですが楽しんでいただければ幸いです。

side 虎牙

勘を頼りにブラブラ歩いているどどこかで見た風景が見えて来た。

「・・・・・ 池袋駅・・・・・」

何を隠そう俺は軽い方向音痴なのだ。

一度行つた場所なら迷わずに行けるが、初めての場所では100%迷つてしまふ。ふとある事に気が付いた『そいつれば家の場所を聞くの忘れてた。』帰るとは連絡をいれたが、何処に住んで居るかは聞いていなかつた。ここまで昔からの付き合いの奴に聞いて来たのだが、ここから先は全く分からぬ。今更ながらに膝をつき絶望していると。

「大丈夫ですか？」

声をかけて来る人がいた。その人はカールした髪型の可愛らしい女の子だつた。

side 虎牙 out

side 蒜谷ミキ

「大丈夫ですか？」

私は池袋に用事がありました。その用事も終わり帰ろうと池袋駅に

向かっている途中、前の方にいた黒髪の男の人がいきなり膝をつきました。何かにうち震えていました。体調が悪くなつたのかと思い、つい声をかけてしまつた。

その人は闇を彷彿とさせる黒髪、黒一色の服装、細身でしつかりとした体型、軽く日に焼けた肌、そんな姿に一瞬目を奪われボーと見入つてしまつた。

「あの、大丈夫ですか？」

話し掛けたのに逆に心配をかけてしまつた。

「は、はい。そちらこそ大丈夫ですか？」

「あっ。すみません。親戚の家に行きたいんだけど、どこにあるのか分からなくてちょっと途方に暮れてだけだから。そうだ！この辺りに住んで居るなら場所が分かるかもしれない。」

そう言ってこちらを向き微笑しながらある場所の住所を聞いてきた。なので私は分かる範囲で説明した。その人は一度言った事を忘れず、説明した通りに歩いてみると黙々と歩いて行つた。私は彼の後ろ姿が見えなくなるまで見送つていた。

side 菅谷ミキ out

side 虎牙

右往左往して漸く目的の義姉の家にたどり着いた。玄関に進もうとした時、玄関の扉が勢い良く開き中から、三人の女の子達が出てきた。三人の内金髪でツインテールの美少女が話掛けてきた。

「あのう。どちら様ですか？」

「ああ。君達の親類だよ。」

至極当然な問いに簡潔な答えで返した。彼女達は驚いた様子でこちらを見ていた。

side 虎牙 out

side 美羽

私達がスーパーに買い物をしに行こうとして玄関を開けると家の敷地に入つてくる男の人がいました。その人は『自分は親類だよ』と言つてきました。そして私達が驚いた表情を見て苦笑し『ウソじやないよ。小鳥遊美羽ちゃん。後ろにいる幼い方がひなちゃんで、となりにいるカーネーションを受けた若干オタク気味なのが空ちゃんだつたかな?』と言つてきました。私たちは再度驚いた。お姉ちゃんのオタク趣味を家族意外で認知している人はいないはずだったのにその人は知つていた。お姉ちゃんはひなと一緒に脅えていた感じだつた。私は相手の人に質問しようとした時、家に電話がかかってきた。相手はお母さんで内容は『もう一人あなた達に会わせたい男の子がいるのよ。その子は私の弟分で服装は黒一色の衣服をいつも着っていて、雰囲気が暗いみたいな奴だけど面白い奴だから来たら仲良くしてあげてね。』ということだつた。この事を教えるとその人は『はあー』と深いため息を吐き、気分を切り替えたのか微笑を浮かべて

「買い物に付き合つよ。」

そう言つて、私たちと一緒に買い物に付き合つてくれた。帰り道の途中では、三人にアイスをおごってくれた。最初は驚いたけど良い人みたいで良かつたと思った。

s  
i  
d  
e

美羽

o  
u  
t

## 5話（後書き）

もう少しで祐太との再会になります。

ご意見、ご感想お待しております。

## 6話（前書き）

今回短くなっています。

side 虎牙

小鳥遊家に帰つて来ると家中から叫び声が聞こえてきた。

「…………にとくと刻むがいい！父の愛の深さを…」

「何だ何だ。ヤクザでも出たか？」

「あれって間違えないね。」

叫び声を聞き、俺は検討違いで物騒な事を考えていた。しかし、この叫び声の正体を知っているのか美羽ちゃんは、大きなため息を吐き出していた。別に自分には関係無いと思い家に入ろうとしたら、目の前には靴べらを降り上げて祐太を襲っている奴がいた。しばらく傍観していると、愛する娘のため修羅と化した男（娘バカ）が獲物の靴べらを大きくふりかぶつたその時

「いい加減にしろ！このバカ亭主！」スパコーンと小気味よい音を立てて男の頭をスリッパで叩かれた。叩いたのは幼なじみの姉にして俺をここに呼んだ人物だった。

side 虎牙 out

side 祐太

さつきまでの修羅から一転、俺にとつて義兄にあたるその男性はすっかり穏やかな中年に戻っていた。どちらかといえば内向的な雰囲気の人なのだが、さつきの殺氣は本物だった。

「まったく…………信吾さんは思いこみが激しいのよ。虎牙君が相手だつたら殴られるだけじやすまれなかつたわよ。」

「…………なかなかやるな。ひなちゃん。だがこれはどうかな。

「我が最終奥義を受けよ。オリヤツ、オリヤツ、オリヤツ、ドリヤア  
ー。」

話題になつてゐる虎兄はひなと一緒に、ホームランバーみたいなコントローラーを振つてチャンバラをするゲームをしてゐる。良い勝負をしているのかひなは「機嫌だ。虎兄の連続技が決まりひなが負けると虎兄はひなに近づき

「俺の連続技使わせるなんて、ひなちゃん強いな。」  
と頭を撫でながら褒めていると義兄さん（にいさん）が勢い良く立ち上がり

「キサマダレノユルシヲエテヒナニサワツ テイル。  
表情を消した顔で虎兄に対し話し（威嚇）掛けた。そんな緊張の中、ひながとんでもない提案を出してきた。  
「パパと虎牙おいたんで勝負して。」

そんなひなの提案に乗り、義兄さんはコントローラーを持ち、面倒くさいと言いたげに虎兄もコントローラーを構えた。

「祐太。ひなちゃんの相手をしてくれ。」

そう言って始まるのを待ちだした。虎兄が何をするのか気付いた俺はひなと一緒にその場を離れた。ゲーム内容はあまりにも一方的だつたため結果だけを記載させてもらいます。勝者・・・・・虎兄

## 6話（後書き）

いかがでしたか？  
ご意見、ご感想待っています。

## 7話（前書き）

今回も短くなつてしましました。  
今後からは、このくらいの量になると想いますが頑張つて続けて行く所存です。

ではでは、本文スタート

side 虎牙

一方的なゲーム（ワンサイドゲーム）を終えてすがすがしい顔で俺は祐理の姉御（通称・祐理姉）に今回帰つて来るようになつた訳を聞いた。解答は『家族を紹介したかったから』といつ俺から言えば下らない事だつた。

「…………パパだつて頑張つたんだぞ？」

「うん、ありがと」

祐理姉と話し込んでいた時に何かあつたらしく、空ちゃんがあつさりしたお礼を言つとその前から扱いが酷かつたのか娘バカが、ソファで丸くなりいじけてしまつた。

「ほらほら、信吾さんイジケないで。信吾さんが頑張つたのは私が知つてるから」

「ゆ、祐理さん…………！」泣きながら祐理姉に抱きつく娘バカ。

そんな家族団欒を見れば、祐理姉が幸せだつて事が俺と祐太によくわかつた。俺はそんな風に誰かと家族を作るとか考えたことがなく、『俺もいつの日かこんな家族が出来たら良いな』なんてガラにもなく考えていた。数分後、祐太が大事な用で帰ると言つた時俺は従姉妹にあたる三姉妹を見据えて

「じゃあ、俺も帰るか。」

そう言つとひなが俺と祐太の脚にしがみついて

「おいたん達かえちゃやー」

と、抗議してきた。祐太がひなに今度来た時に泊まることを約束していると美羽ちゃんが来て

「虎牙さんも今度來た時は泊まつていつて下さいよ」と言われたので約束し、久しぶりの日本で就活を始めることをこの時に決めた。そのあと、祐理姉から再来週から一週間くらいの海外出張でいない

から、その間の泊まり込みでの三姉妹の面倒を見る事になった。もちろんバイト代も出るので祐太も一緒に快く承諾した。

今に思えばこの時祐理姉は自分がこのあとどうなるか気付いていたよう感じた。

side 虎牙 out

10日後祐理姉達の乗った飛行機が行方不明になつた。

## 7話（後書き）

いかがでしたか？

虎牙と長女次女の関係は、美羽ちゃんは話が合つ友達で、空ちゃんは接し易いお兄さんという設定です。

決して一人は、ヒロインではありませんので「ア承下わー」。ご意見、ご感想待っています。

## 8話（前書き）

飛行機事故から一週間の虎牙の行動です。

次回が長くなるのでその前振りになります。

ではでは、本文スタート

side 虎牙

飛行機事故が起こつて一週間、俺は事実かどうか確認のため、世界中にいる俺の仲間達に連絡をいれた。

連絡をいれて2日、政府の見解が発表される前にアフリカにいるダチから『残骸が見つかつた』と連絡が入つた。一応確認のためアフリカに飛び、残骸を確認して周囲の集落に聞き込みをした。得られた情報は皆無だつた。そんなこんなしていたら、葬儀に出席できなかつた。8日ほどアフリカに滞在し情報が得られなかつたので、一時帰国した。

日本に着くとすぐに、叔母にあたる佐原よし子さんに呼び出された。叔母さん曰く『祐太と祐理姉の子供の三姉妹が一緒に暮らしているので監視もかねて祐太達に会いに行きなさい』ということだつた。祐太が今安アパートに住んでいることを知つてその日の内に終わらせたかつたのですぐに

「よう。元氣か？祐太」

祐太に電話をかけて三姉妹の今後の事について話そつと約束してアパートに向かつた。

side 虎牙 out

## 8話（後書き）

次回は祐太との話し合い。そしてある人達との出会いです。

お楽しみに

ご意見ご感想待っています。

## 9話（前書き）

遅れてしません（――）

家庭事情により更新が不定期になりますが、完結を目指して頑張りますので、応援よろしく。

ではでは、本文スタートです。

side 虎牙

祐太と話し合うため祐太が住んでいる安アパートに向かつた。アパートに近付くと空ちゃんの叫び声が聞こえてきた。

「…………ないわよ！あんなこと！」

祐太まさか空ちゃんとやんにやんしたのか！？！？中学生に欲情したのか！？！？今からでも遅くない警察と精神科に行こう。など考えていると叫び声が收まり静かになった。アパートの管理人の元に向かい挨拶を終わらせた後、祐太と三姉妹が居るであろう部屋に向かつた。賑やかな声が聞こえて来る。明るく本当に楽しそうな

9話（後書き）

「」意見「」感想待つてます。

## 10話（前書き）

お待たせしました。10話です

まだ定期的に更新できませんが頑張ります

ではでは、本文スタートです

祐太とよし子叔母、俺で空ちゃん達三人の今後について話し合ひつ事になつた。

side 祐太

虎兄に呼び出され待ち合せ場所に着くとすぐに虎兄を見つけた。虎兄は今最も俺が会いたくない人と一緒にいた。

side 祐太 out

side 虎牙

祐太を待ち合わせ場所で待つていると、いつの間にかよし子叔母がいた。

「よし子叔母さん！！祐太との話し合いは俺に任せてくれるんじやなかつたのか？！」

少し問い合わせる様に怒氣を込めて聞いた。叔母さんの答えは簡単だつた。祐太の覚悟を聞くことと、俺に祐太と三姉妹を任せるのとどだつた。一応納得したので軽い世間話をしていると祐太が来た。さあ祐太お前の覚悟を聞かせてもらおうか！！

side 虎牙 out

## 10話（後書き）

少しずつ頑張って、更新していきます  
ご意見、ご感想待っています

## 1-1話（前書き）

遅れて申し訳ないm(—)m

後書きにお知らせ有り

ではでは、本文スタートです。

side 祐太

散々よし子叔母さんに言われた。そして一枚の手紙のような物をテープルに差し出され

「これは・・・・・・?」

「一つは、小鳥遊家の連絡先。もう一つは、私の知人が運営している児童施設の連絡先です。」

「児童・・・・・・施設」

「相談したところ、一応、義務教育の間はあの子達が一緒にいられるようにしてくださるそうです。高校からは、仕方ありませんけどね。」

そう言われ、ほんの少し心が揺れた。向かいに座る虎兄は何か考えている様で、真面目な顔で俺を見ていた。その姿に少し戸惑いながらもよし子叔母さんの話を聞き続けた。

side 祐太 out

side 虎牙

よし子叔母がいろいろと厳しいことを言った。空ちゃんと美羽ちゃんの学校での現状、二人に迷惑を掛けない様にしていた筈が、逆に氣を使っていた事。祐太はそれを聞いて何かを感じている筈。これで何も感じない様なら今後一切手を貸さない事を決めており、この場の最善の方法も考えていた。言いたい事を散々言つてよし子叔母は立ち上がり

「虎牙君。会計お願い。じゃあ私はこの後用事が有りますから、二人で話し合いなさい。では、さようなら。」

そう言って店を出て行きました。その様子を見て一回深くため息を吐き、祐太の顔を見てまた深くため息を吐いた。絶望したような顔をしていたので新たな選択肢を出した。

「祐太。もう一つだけ選択肢をあげるから選びな。・・・元の家に祐太と俺を含めた五人全員引越しすだけだ。」

「・・・・えつ、それだけ??!」

「ああ、これだけ。まあ俺はそこまでどうこう言いつもりは無い。さあどうする?」

案外簡単な内容だったため拍子抜けしたようだが、少し考えて頭を下げてお願いしますと頼んで来た。

祐太が了承したのを確認してある人物に電話を掛け、ひなの保護者参観日にある計画を立てた。

さあ楽しい楽しいパーティーの始まりだ。

side 虎牙 out

## 1-1話（後書き）

他のFFを書こうと思います。以下のいずれかで、人気が高いものを一つ書こうと思います。作品名の前にある数字を送って下さい。  
〆切は11月15日23時59分までです。どうぞよろしくお願いします。

- 1 魔法少女リリカルなのはシリーズ
- 2 イレブンソウル
- 3 ブレイクブレイド
- 4 舞 HIME
- 5 I S インフィニットストラatos

以上5作品の内からお願いします。

ご意見ご感想待っています

## 1-2話（前書き）

本当、遅れて申し訳ない

m(—)m

家庭内問題と就活でまだ不定期になりますが、全力で更新していく  
ます(^o^)

ではでは、本文スタートです

side 祐太

よし子叔母さんから散々抗議を受けた。ダメ出しどばかりに施設まで紹介された。悩んだ。吐氣がするくらい考えた。頭が真っ白になつた。けど答えは直ぐに思い描けた。姉さんや義兄さんと一緒に笑い合う彼女達が・・・

虎兄が真摯な目で、真剣に問掛けてきた。こんな目をしている虎兄には嘘はつけない。ただただ、真摯に自分の気持ちを告げた。これで何を言われても、後には引けない。

「虎兄。俺はあの子達が笑顔で居てくれるだけで頑張れる。例えそれが悲しみを先送りにする行為でも、今が一番大切だと思うから。たぶん俺一人だと立ち止まりそうになるから。俺と一緒に彼女達の笑顔を守つて下さい。お願いします。」  
土下座の様に頭を下げ頼みこんだ。

side 祐太 out

## 1-2話（後書き）

### アンケート結果

### 5 IS インフィニッシュストラトス

に決まりました。

この作品が一段落着いたところで初めて引っ越しであります。早めに次回の更新が出来るようガンバります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0827x/>

---

パパのいうことを聞きなさい！IFストーリー

2011年11月24日18時47分発行